



(楯 岡)

山形・小田島城跡

1 所在地 山形県東根市大字東根字本丸ほか

2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 四月～二〇〇一年二月

3 発掘機関 (財)山形県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 高桑 登

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小田島城跡は、白水川扇状地に張り出した舌状の丘陵地の先端部に立地する。本丸及び二の丸の一部には、現在東根市立東根小学校が建っている。

小田島城は、正平二年(一三四七)に小田島長義

によって築城されたと伝えられる。その後、応永二年

(一三九五)には東根頼高、

天正一二年(一五八四)の

天童合戦後には里見景佐が城主となった。江戸時代初

期にも最上氏の支城として里見氏が城主を務めたが、元和八年(一六三二)、最上氏の改易に伴って、城は山形藩預かりとなり、寛文元年(一六六二)に廃城となった。

今回の調査では、縄文時代から近世までの遺構・遺物が出土している。中でも一四世紀後半から一五世紀初頭まで、一六世紀末から一七世紀前半までの時期の遺構・遺物が多い。

今回報告する木簡は、本丸と二の丸の北に位置する龍興寺沼の西岸及び北岸から計一二点出土した。共伴遺物は一四世紀後半から一五世紀初頭のものが多い。龍興寺沼は自然の沢をせき止めて作られた人工の沼で、本丸と二の丸の一部を囲む堀として機能していた。

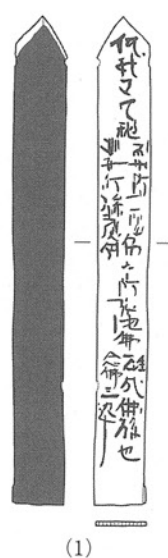
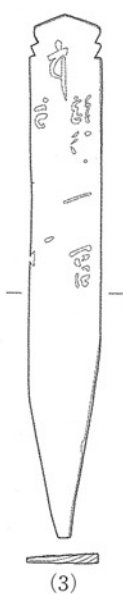
沼の北岸、西の三の丸に位置する龍興寺(中世には普光寺)境内には、正平一一年(一三五六)の年号が記された「普光寺の梵鐘」がある。また、付近には龍神社があり、城内の宗教的な空間であったことがわかる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「キカラバ南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏念仏三成仏願也」

191×21×1.7 061

(2) 「南無七千」 (125)×(27.5)×3.1 061



(3)	〔ベン〕 [] [] [] []	207×27.5×3.7 061
(4)	〔ベン〕 南無阿弥陀人	(260)×20×1.3 061
(5)	〔ベン〕 大日如来	265×21×1.1 061
(6)	〔ベン〕 大日如来	(120)×18×1 061
(7)	大日如来	(175)×19.5×1.5 061
(8)	〔ベン〕 [] []	213×14.5×2.5 061
(9)	〔キョウク〕 〔符籙〕急々如律令☆	217×25×3.8 051
(10)	〔符籙〕急〔タカ〕 [] []	(96)×40×3.35 019
(11)	〔ちかなり〕	126.5×22.5×2 051
(12)	・ [] [] ・ [] []	径159×厚7 061

(1)は圭頭を呈し、下端は平らである。裏面は上端が面取り状に削られ、一面にスキ漆が塗られる。(2)(3)は圭頭を呈し左右に二カ所ずつ切り込みがある。(3)は墨が失われているが、文字部分が浮彫状に遺存する。(4)～(6)は圭頭を呈する。(8)は墨痕が薄く判読が困難で

ある。(9)は圭頭を呈し下半は先細りになるが、下端部は平らである。(10)は圭頭を呈し下端部は欠損している。(11)は上端が平らで下端部が尖る。「ちかなり」は人名と考えられる。(12)は曲物底板で、表裏両面に多数の文字が書かれるが判読できなかった。
なお、木簡の釈読にあたっては、山形大学の三上喜孝氏のご教示を得た。

9 関係文献

〔財〕山形県埋蔵文化財センター『小田島城跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書一三一、二〇〇四年)

(高桑 登)